

3 研究実施体制

〔概 要〕

本館の共同研究については、研究推進センターが年度ごとに募集方針を定め、本館研究部の教員や館外の研究者から公募によって申請された共同研究の計画に関して審議を行い、調整を行っている。その上で、館外の委員を含む運営会議共同研究委員会において審議・採択がなされ、広く学界の意見を反映させる体制をもって研究推進を図っている。また、本館の研究においては、大学共同利用機関としての機能を強化、充実させることを目的に、この共同研究員のほか、客員教員や外国人研究員（長期）の採用と研究プロジェクトへの配置なども行っている。そして、機関研究員をはじめとする非常勤研究員、研究補助員を雇用して若手研究者の育成と研究推進の円滑化を図っている。

研究推進センター長 高田 貫太

〔客員教員〕

氏名	委嘱職名（本務校）	担当プロジェクト	期 間
是澤 紀子	客員教授（日本女子大学家政学部住居学科・教授）	館蔵天沼俊一旧蔵資料整理研究プロジェクト	2024.4.1～ 2027.3.31
春日 聡	客員准教授（多摩美術大学・非常勤講師）	歴博で実施する映像関連イベントや展示等、映像による研究成果の発信方法についての研究・企画立案	2023.4.1～ 2026.3.31
小倉 慈司	客員教授（青山学院大学文学部・教授）	延喜式のデジタル技術による汎用化の推進	2025.4.1～ 2028.3.31
若林 邦彦	客員教授（同志社大学歴史資料館・教授）	総合展示第1室「水田稲作のはじまり」	2025.4.1～ 2028.3.31

〔特別客員教員〕

氏名	委嘱職名（本務校）	担当プロジェクト	期 間
阿部 昭典	特別客員教授（千葉大学大学院人文科学研究院・教授）	基盤研究「小渡遺跡を中心とする十腰内文化の研究」	2023.4.1～ 2026.3.31
小幡 圭祐	特別客員准教授（山形大学学術研究院（人文社会科学部主担当）・准教授）	基盤研究「『地域アーカイブ』の形成過程と郷土史家の役割に関する総合的研究」	2024.4.1～ 2027.3.31
高田 宗平	特別客員准教授（平成国際大学・客員講師）	基盤研究「平田篤胤関係資料の漢籍受容に関する総合的研究」	2024.4.1～ 2027.3.31
田中 史生	特別客員教授（早稲田大学文学学術院・教授）	基幹研究「平安期の社会の構造と変動を外的インパクトから捉える—交流・天災・疫病—」	2025.4.1～ 2028.3.31
下村 育世	特別客員准教授（青森公立大学経営経済学部・准教授）	基盤研究「近代暦知の総合的研究」	2025.4.1～ 2028.3.31

〔外来研究員〕

氏 名	研 究 課 題	期 間
大場 あや	東アジアにおける葬制の変容メカニズムについての調査研究	2025.4.1～ 2026.3.31
川邊 咲子	歴史情報記録方法の高度化	2025.8.1～ 2028.7.31
張 スルジ	日本—馬韓交流関係の変遷と背景に関する研究	2026.2.27～ 2027.2.26

[プロジェクト研究員]

氏 名	研究プロジェクト	期 間
賀 申杰	総合展示新構築プロジェクト（第5展示室「近代」・第6展示室「現代」）	2020.4.1～ 2026.3.31
三輪 仁美	延喜式のデジタル技術による汎用化	2023.4.1～ 2026.3.31
池田 美穂	日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究	2025.11.17～ 2026.3.31
笹本 美和	日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究	2025.12.1～ 2026.3.31
游 乃蕙	日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究	2025.12.1～ 2026.3.31

[科研費支援研究員]

氏 名	研 究 課 題	期 間
上 奈穂美	基盤研究（A）「未踏区域「縄文時代前期」に到達する酸素同位体比標準年輪曲線の構築」	2022.4.1～ 2029.3.31
今村 佳子	学術変革領域研究（A）「モノとヒトの相互構築史：マテリアマインドの実証的・理論的研究（物質と心班）」	2024.10.1～ 2029.3.31
中里 灯希	基盤研究（B）「歴史学研究者アーカイブズの研究資源化とプラットフォーム構築」	2025.10.1～ 2028.3.31
若木 仁美	基盤研究（B）「歴史学研究者アーカイブズの研究資源化とプラットフォーム構築」	2025.10.1～ 2028.3.31

[非常勤研究員]

氏 名	研 究 課 題	期 間
仁藤 敦史	50年史編纂室プロジェクト室における年史編纂データ収集整理	2025.7.1～ 2027.3.31

[リサーチアシスタント]

氏 名	所 属	研究プロジェクト	期 間
前野 智哉	三上 喜孝 (後藤 真)	基幹研究プロジェクト「延喜式のデジタル技術による汎用化」	2025.4.1～ 2025.9.30
石井 伸明	土山 祐之	開発型共同研究「中世民衆生活史像の再構築—気候変動・自然災害と民衆生活との相関関係を探る—」	2025.5.1～ 2026.3.31
森田 大貴	田中 史生 (三上 喜孝)	基幹研究「平安期の社会の構造と変動を外的インパクトから捉える—交流・天災・疫病—」	2025.4.1～ 2026.3.31
高屋 昂平	阿部 昭典 (中村 耕作)	基盤研究「小渡遺跡を中心とする十腰内文化の研究」	2025.4.1～ 2026.3.31
伊藤 優	下村 育世 (小池 淳一)	基盤研究「近代暦知の総合的研究」	2025.4.1～ 2026.3.31
牛窪 彩絢	山田 慎也	基幹研究「高齢多死社会における生前から死後の移行に関する統合的研究」	2025.4.1～ 2026.3.31
石井 康平	後藤 真	基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」	2025.4.1～ 2026.3.31
伊藤 静香	川村 清志	基幹研究プロジェクト「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」	2025.4.1～ 2025.8.31

川津 寧々	川村 清志	基幹研究プロジェクト「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」	2025.9.1～ 2026.3.31
金 恵仁	松田 睦彦	基幹研究「東アジアにおける文化の伝播と地域的展開に関する学際研究―「耕織図」の日韓比較を中心として―」	2025.4.1～ 2026.3.31
佐々木 七美	大串 潤児	総合展示第5室（近代）・第6室（現代）リニューアル	2025.4.1～ 2026.3.31
ラウ シンイー	若木 重行	基盤研究「先端的同位体分析が拓く歴史資料研究の新展開」	2025.6.1～ 2026.3.31

[研究機器]

歴博では、歴史学・考古学・民俗学の三学協業とともに分析科学をはじめ関連諸科学との学際的な積極的連携をはかり、新しい歴史学の構築創造をめざしている。このため、大学共同利用機関として、館外の研究者との共同研究を通じて新しい研究方法の導入に努めるほか、館内においても先端的な研究に必要な機器を導入することに努めてきた。

主な研究機器は下記の通りである。これらは一部を除いて共同利用に供されている。

研究推進センター長 高田 貴太

[主要研究機器]

分析機器・設備名		規格		導入年度	主な用途
蛍光X線分析装置		日立ハイテクサイエンス	EA1400	2022年度	・元素分析（軽元素の測定可）
表面分離型質量分析計		Thermo Fisher Scientific	TRITON XT	2022年度	・ストロンチウム・ネオジウムなどの同位体分析
ICP質量分析装置		パーキンエルマー	NexION2000	2020年度	・同位体比測定のために抽出した鉛、ストロンチウムなどの回収量分析 ・微量元素分析
微小試料採取機器		マイクロサポート	AxisProSS	2015年度	・顔料、剥離漆の採取
マルチコレクタICP質量分析計（MC-ICP-MS）		Thermo Fisher Scientific	NEPTUNE PLUS	2013年度	・鉛同位体比の測定（青銅製品などの産地推定等） ・ストロンチウム同位体比の測定（人骨による生育地推定等）
X線分析顕微鏡		HORIBA（堀場）	XGT-5200SL	2013年度	・元素分析（錦絵色材等） ・元素マッピング解析
特性X線検出器付低真空電子顕微鏡（SEM-EDX）		JEOL（日本電子）	JSM-6010LA	2013年度	・極微小部の観察（種実同定、種実圧痕、金属製品等） ・微小部の元素分析
分光放射輝度計		コニカミノルタ	CS-2000A	2012年度	・文化財の可視分光光測色
赤外線カメラシステム					・木簡の文字判別 ・漆紙文書の文字判別
内 訳	InGaAsカメラ	浜松ホトニクス	C10633	2011年度	
	カメラコントローラー	浜松ホトニクス	C2741-62	2011年度	
ハンドヘルド蛍光X線分析計		オリンパス・イノベックス	DP2000 DELTA Premium	2010年度	・大型資料、館外所在資料の極部元素分析
AMS-14C法支援機器		elementar	IonPlus AGE 3	2023年度	加速器質量分析法による炭素14年代測定（AMS-14C法）の測定試料となるグラファイトの調製（測定は他機関に依頼）

〔図 書〕

本館の研究棟には「研究用図書室」が、展示場には「入館者用図書室」があり、それぞれの用途・利用者にあわせて、関連諸分野の図書や雑誌等を収集し、利用に供して、館内外の研究者の調査活動の支援を行っている。

図書部会では、例年「本館における図書収集方針」を確認した上で、必要な図書等を選定し、各施設の整備等を進めて、図書利用におけるサービスの向上に努めている。

（１）2025年度の図書収集方針の概要

当該年度の図書収集方針は、次のとおりであった。

本館が収集する図書・雑誌（逐次刊行物）は、以下の方針に基づいて行う。紙媒体のほか、マイクロ資料、電子情報資料（光ディスク、USBメモリ、データベース・電子ジャーナル・電子ブックなど）を対象とする。

〔図書〕

- （１）日本の歴史と文化について、歴史学・考古学・民俗学及び関連諸学の基本的な図書を収集する。
- （２）共同研究、展示、資料に関わる基本的図書を収集する。
- （３）自治体史等（都道府県史・市町村史等）、発掘調査報告書・民俗調査報告書、文化財調査報告書等、展示会図録類（本館の研究等に関連する博物館・美術館のもの）は蔵書の特色であり、重点的・網羅的収集に努める。

〔雑誌〕

- ・大学研究紀要、学術雑誌類は、継続誌を中心として主要な雑誌を受け入れる。
- ・雑誌は購入のほか、オープンアクセスの有効活用を図る。

なお、受入図書の具体的な基準については、「図書収集方針に基づく図書受入基準」（別表）に定める。

（２）2025年度の活動概要

１）国立歴史民俗博物館図書利用規程の改正

来館頻度が低い利用者について、図書利用者カードを発行せず、研究用図書室利用申込書の提出で代替できるよう規定を改正した。これにより、利用者登録および管理に関する事務手続きが簡素化され、受付手続きが迅速になった。また、総合研究大学院大学の退学者の利用についても、規定を明確化した。

２）図書・雑誌の寄贈依頼に関する事務手続きの整理

教員からの図書・雑誌の購入希望や寄贈依頼の要請、館外からの寄贈申出、また図書係が寄贈依頼を必要と判断した場合の事務手続きについて、図書係と部会長でフローを整理し、部会において共有した。

３）５・６室リニューアルに伴う入館者用図書室の整備

５・６室のリニューアルに伴い、入館者用図書室から撤去する図書および新たに配架する図書を、リニューアル委員会の要望にもとづいて選定し、入館者用図書室の整備を行った。

４）複本・所在不明図書等の除籍

2019年度以降積み残しとなっていた複本、および長期所在不明図書等の除籍処理を行った。また、調査室などの地下ゾーンで保管・発見された図書について整理し、複本について除籍処理を行った。

５）DOIの付与作業

歴博リポジトリのうち、研究報告第207集（2018年度）以降のDOIが付与されていない論文について、DOIの付与作業を行い、論文へのアクセスや活用をしやすい環境に整備した。

６）未登録外国雑誌の選定

昨年度に外国雑誌の移動を行った際、未登録の外国雑誌が発見されたため、部会にて選定作業を行った。

７）入館者用図書室への教科書の配架

５・６室リニューアル委員より、入館者図書室への教科書の配架希望があったため、部会にて審議し、文部

科学省が示す『高等学校用教科書目録』に掲載されている「歴史総合」、「日本史探究」および「世界史探究」の文部科学省検定済教科書を入館者用図書室に配架することとした。

(3) 今後の課題

1) 図書購入費について

電子ジャーナル（外国雑誌）の価格が毎年上昇しており、新規図書の購入費を圧迫している。今後も外国雑誌の継続購読や契約方法について、適宜見直しを行う必要がある。

また、電子ジャーナル・データベースの利用説明がわかりにくいいため、利用者への情報提供方法について改善を図る必要がある。

2) 図書の購入について

昨年度に引き続き、今年度も書店提案による歴博未所蔵図書リストを活用して選書を行った。予算の都合もあり購入に至らなかった図書もあるため、優先順位を考慮しつつ、今後も購入を検討する必要がある。

なお、書店提案リストによる選書は、図書購入希望が提出されにくい状況を背景に実施されたものであるため、教員が選書しやすい体制の整備について検討する必要がある。

3) 入館者用図書室の選書について

今年度、部会委員による入館者用図書室の見学および調査を行った。入館者用図書室に配架する図書は、展示内容の理解を深めることを目的としているが、入館者用図書室全体の図書の選書基準が明確化されていないため、分類基準も含め引き続き検討する必要がある。

4) 研究用図書室の書架整理について

一昨年度に和雑誌、昨年度に外国雑誌の移動を行ったことにより、研究用図書室および第2書庫1層に、まとまった配架スペースが確保された。一方で、別置になっている部門や狭隘化している部門があるため、再配架計画の策定と移動作業を順次進めていく必要がある。

5) マイクロフィルム資料の劣化について

TACベースフィルムの劣化により酢酸臭が発生しており、マイクロフィルム保管庫内の空調機器の故障原因となっている。劣化の程度と自館での保存の必要性を把握し、具体的な対応策を引き続き検討する必要がある。

6) 原板使用による献本の取り扱いについて

原板使用による献本については、現在、研究用図書室および入館者用図書室で活用が見込める図書を部会にて選定・収蔵し、非選定の図書についてはリユースに回している。原板使用による献本の保存については、検討が必要である。

また、献本雑誌は単発で送付されてくるため、定期刊行物であるにもかかわらず、継続的に所蔵することができない。献本雑誌の受入後の取り扱いについても、検討が必要である。

図書担当 後藤 真

[図書受入冊数]

	研究用図書室 受入冊数	入館者用図書室 受入冊数	製本雑誌	除籍冊数	累計蔵書冊数
冊数	4,111	324	40	247	383,154